

Vin de la bocch の自社圃場の土壌について

当社圃場の最も近くに位置する戸室山は、その南東に隣接するキゴ山とともに、金沢大学角間キャンパスの4km南東に位置する安山岩の溶岩円頂丘（溶岩ドーム）である。およそ2～5万年ごろ前に西側の溶岩ドームが崩れて、麓の土地（俵町周辺）に大量に流れ着いた土砂が「流山」と呼ばれる小丘を形成した。



出典：「金沢市の戸室火山岩屑流堆積物の特徴とその中の木片の14C年代」

石渡 明*・田崎和江*#・田崎耕市#（*金沢大・理・地球，#金沢市俵町ヲ甲16）

この流山には、戸室石と呼ばれる安山岩が多く内在し、戸室山山麓の比較的加工から近い場所には「青戸室（石）」、圃場のある俵町附近の比較的遠い場所には「赤戸室（石）」が分布する。



青戸室は、表面は青みを帯び、硬く、凍寒や風化にも強いことから金沢城の城壁の石として利用されてきた。一方、赤戸室は形成の過程で酸化されて生成された岩石であり、表面は赤みを帯び、風化の影響を受けやすくもろいため、小さく崩れて砂れき質の土壌を形成する基となる。

この赤戸室が風化してできた土壌が当社圃場の土壌を形成し、やや赤みがかった砂れき質の土壌の中に、大小織り交ざった赤戸室石の岩塊が混在することにより、土壌物性上、大変水はけの良い土壌となっている。

圃場の土壌の pH は 5.5～6.5 のやや酸性で、化学組成は含有率が高い順に、二酸化ケイ素（60%）、酸化アルミニウム（17%）、酸化鉄Ⅱ（5%）などとなっている（Tasaki et al., 2017）。この組成自体がワインの味わいにどのような影響を与えているかは、専門の先生方に委ねるとして、当社のワインに「ミネラル感」を感じるとコメントいただくお客様が多いことと関係があるかも知れません。